

## 事業所における自己評価結果（公表）

令和3年度

事業所名 社会福祉法人慧誠会 帯広児童養育センター

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が療育の空間等、スペースとの関係が適切である	○				
	②	職員の配置数は適切である	○				
	③	療育の空間は、本人に分かり易く構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、情報伝達等への配慮が適切になされている		○		活動内容に合わせてパーテーション等を使用し、配慮をしている	
	④	療育の空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達がの活動に合わせた空間となっている		○			整理整頓や清潔に努め、部屋のゴミ箱のゴミをその都度捨てる
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○				
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○				
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所のホームページ等で公開している	○				
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている			○	来客者からの評価等を職員で共有	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			コロナ禍でZOOM研修を行っている	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○				
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			適応行動を図る為に詳細な聞き取りを行っている	
	⑫	児童発達支援計画（あゆみ）には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で具体的な支援内容が設定されている	○				
	⑬	児童発達支援計画（あゆみ）に沿った支援が行われている	○				
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	○				

環境・体制整備	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			固定化にならない様にプログラムを考えていく	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画（あゆみ）を作成している	○				
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		その日の振り返りが出来ない時は、後日行う様にしている	振り返りが出来ていない時があるので、その達成が必要
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている		○		クラスで話した内容を記録に残していく	支援の検証と改善点について、記録に残す
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画（あゆみ）の見直しの必要性を判断している	○				
関係機関や保護者との連携	㉑	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○				
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○				
	㉓	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	㉔	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○				
	㉕	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○				
	㉖	（自立支援）協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○				
	㉗	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている		○		親子療育や、お話の時間を通して、伝える事を心掛けている	保護者との共通理解には課題がある
	㉘	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	○				
	㉙	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○				
	保護者への	⑳	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」（あゆみ）を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			

説明責任等	③①	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	③②	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	③③	定期的におたより等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	③④	個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	③⑤	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	③⑥	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			○	今年度はコロナ禍の為、行っていない
非常時等の対応	③⑦	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している			○	防犯の訓練が行われていないので、今後実施していく
	③⑧	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		避難訓練の実施時間を増やし、親子訓練の機会を増やしている	風水害・地震の避難訓練を行っている
	③⑨	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○		フェイスシート等で確認をしている	
	④⑩	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	④⑪	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			
	④⑫	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			